

《研究主題》

# 荒川区英語教育の実践を踏まえた、 小学校英語科授業スタイルの構築



## あいさつ

荒川区教育委員会 教育長 高梨 博和

社会のグローバル化が急速に進展している現在、様々な文化や価値観を背景とする人々と協働し、日々生まれる新しい知識、情報、技術に対応するためには、コミュニケーション能力の育成や国際標準語としての英語の習得が極めて重要です。

こうした中、本校は、平成27・28・29年度文部科学省外国語教育強化地域拠点事業として、「荒川区英語教育の実践を踏まえた、小学校英語科授業スタイルの構築」を研究主題に掲げ、新学習指導要領の全面实施を見据え、全国に先駆けた高学年70時間、中学年50時間、低学年35時間の英語科の授業の充実と15分間のモジュール学習の開発に意欲的に研究を積み重ねてこられました。

3年間にわたる本校の研究の成果が区内及び都内、全国の小学校における英語教育のより一層の充実に生かされますことを荒川区教育委員会として大いに期待しております。

結びに、熱心に研究に取り組まれた石塚 吉之校長を始め教職員の方々、また、本研究に関しまして、ご指導ご助言を賜りました聖学院大学准教授 東 仁美先生に心より感謝申し上げます、あいさつとさせていただきます。

## はじめに

荒川区立尾久第六小学校 校長 石塚 吉之

これからの社会を生き抜く子供たちにとって必要な資質・能力として、新学習指導要領では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つを挙げています。これらは、これまでも必要として位置づけられていたものが、視点、表現が変わってきたものと言えます。

変化した理由の一つに、これまで以上の国際化があります。海外へ行く・外国の文化や人々を迎え入れることが、これからの子供たち全員にとって当たり前になります。それゆえ、知識・技能や思考力・判断力・表現力等も、今以上の「国際化」の視点で考え身に付ける必要があります。その中、英語等でのコミュニケーション能力は重要です。

今回、その課題に向けて本校では、荒川区英語教育の流れを踏まえ、短時間学習・モジュール学習の形を考えると、発表の場をいただきました。皆様方からのご指導・ご助言をお願い申し上げます。

最後に、ここまでご指導をいただきました聖学院大学准教授 東 仁美先生を始めとする講師の先生方、貴重な研究の機会を与えていただきました文部科学省、東京都教育委員会、荒川区教育長 高梨博和先生・荒川区教育委員会の皆様に感謝申し上げます。

平成30年1月30日

荒川区立尾久第六小学校